

第一商業高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭 科目 家庭総合

教科： 家庭 科目： 家庭総合 単位数： 3 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A組：氣田 ） （B組：氣田 ） （C組：氣田 ） （D組：氣田 ） （E組：氣田 ） （F組：氣田 ）

使用教科書：（ 実教出版 家庭総合 ）

教科 家庭	の目標：
【知識及び技能】	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解していると共に、それらにかかわる技能を身につける。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に実現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につける。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践する態度及び力を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 住生活をつくる 【知識及び技能】 ・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。日本の住まいの変遷、生活様式などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。健康的な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。住宅のバリアフリーやユニバーサルデザインについて考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・住生活に関心を持ち、将来の住まいについて考えようとしている。	・生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。 ・住まいの変遷から現代の暮らしに生かすことができる和の住文化を考える。 ・ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。 ・平面図を具体的に読み取り検証し、そこでの生活をシミュレーションする。 ・安全で安心して暮らすための備えや予防の重要性について理解する。 ・室内環境と健康のかかわりを考える。	【知識・技能】 ・住居の機能と生活とのかかわりについて理解し、避難所やホテルがなぜ住居ではないかなど説明ができる。住まいの変遷と生活様式の変化について理解している。 【思考・判断・表現】 ・ライフステージや住む人の住欲求によって平面図が変化することを理解し、平面図を読み取ることができる。様々な部屋の間取りからそこでの生活を考え、想像することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ライフステージに応じた住生活の計画を積極的に考える。健康的な住まいについて具体的に考え、自分の生活と比較検討することができる。	○	○	○	10
	B 単元 高齢者とかかわる 【知識及び技能】 ・高齢者、高齢社会の現状と課題について理解する。高齢者の心身の特徴を理解し、日常生活の中で手助けできる介助の技術を身につける。介護保険制度について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢期の心身の変化による生活行動の不安に気づき、改善方法を考える。要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解する。高齢者介護をめぐる課題の解決について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢期を身近なことからえ、相手の立場に立って主体的に学習に取り組む。さらに自分の将来像として考えることができる。	・高齢社会の現状について理解する。 ・高齢者のイメージをまとめ、高齢者疑似体験を通し、実際の高齢者の心身の特徴を知り、生活について考える。 ・高齢者の日常生活を手助けできる介助について考え、技術を体験する。 ・高齢者のいる生活において、安全、安心に必要なことについて考える。 ・日本の介護保険制度について理解する。	【知識・技能】 ・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴について正しく理解している。 ・日本の介護保険制度について理解している。 【思考・判断・表現】 ・高齢社会の現状と高齢者の生活環境を考え、情報を収集し、その課題と改善について意見を交換したり、発表することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・高齢者の生活に関心を持ち、課題を見つけその解決について主体的に考え、意欲的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

2 学期	C 単元 食生活をつくる 【知識及び技能】 - 日本の食の現状を知る。 - 栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれている食品についての基礎的な知識を身につける。 - 食品の特性、食品衛生について理解し、基礎的な調理技術を身につける。 - 食品表示の意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 - 自分の食生活を把握し、心身共に健康に生活するための今後の課題について考える。 - 基本的な献立から、自分や家族に合った献立へ工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 食における課題を自分のこととしてとらえ、食生活を改善につなげようとする。 - 調理実習に主体的に取り組み、配膳やマナーに配慮することができる。	- 食生活の現状を知り、日本と、自分自身の食生活の問題点について気付く。 - 栄養素の種類と働き、それを含む食品について基礎的な知識を身につける。 - 栄養計算、食事摂取基準を理解し自分の食事の内容について意識することの重要性を理解する。 - 食品表示のルールや記載内容を理解する。 - 調理実習を通して、調理の基礎的技術を習得し、配膳やマナーを実践する。 - 食の安全安心に考慮した食生活を送ることができるようになる。	【知識及び技能】 - 日本の食の現状について理解し、自分の食生活と照らし合わせて考えることができる。 - 栄養素、食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、実践することができる。 1日に必要な各種栄養素及び食事摂取量を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 - 日本の食の現状について新聞にまとめ、発表、意見交換ができる。 - 調理自習において作業の流れを判断しながら完成をを想像しながら取り組むことができる。 - 調理実習において振り返り、自分の生活に生かすことができる。 - 食品表示を理解し、自分に合った加工食品が何か考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 自分自身の食生活について関心を持ち、自分や家族の日常の食について改善、向上に努めようとする。 - 調理実習に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	27
	定期考査			○	○		1
3 学期	C単元 食生活をつくる 【知識及び技能】 - 食品ロスについての現状を理解する。 - 環境に配慮した調理について考え、実践することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 日本の食品ロスへの具体的取り組みについて。 - 食の安全と環境への配慮について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	- 食と環境についての関連を理解する。 - 地産地消への取り組み、食の安全性について理解し、考える。 - 環境に配慮した調理、食品ロスを考えた調理を実践する。	【知識及び技能】 - 食と環境についての様々な取り組みを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 - 環境に配慮した献立と調理技術を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 自分自身の食生活と結び付けて考えることができる。	○	○	○	11
	D 生活課題の発見と解決 【知識及び技能】 家庭総合で学んだことを元に、生活課題を見つける。 【思考力、判断力、表現力等】 各自の生活課題について考察し、解決方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	- 家庭総合の2年間の学習を生かして、自分の生活を見つめなおす。 - 見つけた課題の解決方法を考え、将来の自分の生き方とどうつなげていくか考える。	【知識及び技能】 家庭総合の各単元で学んだことを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の生活を客観的に見つめることができ、課題を見つけることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自立に向けて家庭総合で学んだ技術や知識を使って主体的に問題解決に取り組もうとする。	○	○	○	6
定期考査				○	○		1
							合計
							70